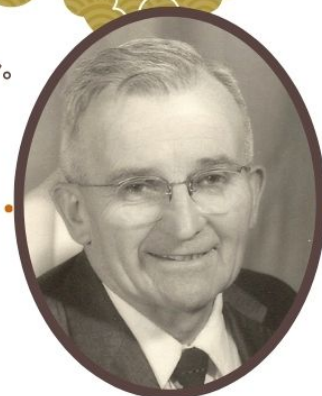


the LEGENDS

人生をかけて、異国の地・日本に来られた歴代の宣教師～レジェンド：立役者～。
その命がけの情熱によって、キリストと出会える恵みに預かっている現代の私達。
今回、戦後間もない長崎県天草に来られ、福音を宣べ伝え、数々の教会を
建て上げて下さった〈アーサー・グレエル師〉のお証しをご紹介します。



特集

アーサー・グレエル師

〔天草～九州地方への開拓宣教〕

日本宣教への召命～52歳からの出発～

私の日本宣教への召命は、パウロがマケドニア人伝道に行く時の神の召しに似ていました。1950年の春、40日間の祈りと断食の後、おびたしい数の人々が暗闇の中で苦しみ、もがいている幻を見ました。「助けに来て！」と叫んでいるように見えました。この幻が私の人生を変えました。

「主よ、もしあなたが道を示して下さるなら
私はどこにでも行きます」

52歳になった私は宣教委員会が定めた海外宣教を始める年齢を遥かに越えていましたが、主は道なきところに道を開いて下さいました。その後、日本行き切符を買うために必死で働き、準備のために3ヶ月過ごし、1952年8月1日、数人の宣教師と日本へ出帆しました。

日本に到着！～天草市牛深でのご計画～

1952年8月17日、横浜に到着。日本語を学ぶため、他の宣教師たちと別府に数週間滞在し、共に天草諸島に向かいました。気持ちが落ち着かないまま同年9月25日に牛深に着きましたが、見知らぬ土地である天草市の小さな町、牛深町に遣わされたことは、まさに神様のご計画以外の何ものでもありませんでした。

牛深には、宇良田亮子さんという女性が住んでいました。亮子姉は九州本島のミッションスクール在学中、結核にかかり、神様に癒されクリスチャンとなりました。卒業後、島に戻り、多くの人達に福音を伝えたいと、子供のために野外礼拝を始めました。亮子姉は「イエス・キリストのメッセンジャーを送ってください」と神様に祈り続けていました。

そんな時、宣教師が島に来ることを聞き、自分の祈りが答えられたと信じたそうです。神様は亮子姉の祈りを心に留めて、私を天草に送りこんだのです。言葉はもちろん何の事情もわからないまま、私は牛深町に二階建ての家を借り、通訳を通して英語のクラスや伝道を始めました。当時の島は大変な困窮にあり、食物は乏しく、若者も老人も飢え、みな食事や住む所を求めていました。私は出来る限り彼らを助けたいと思いました。

ある日、亮子姉は泣き明かして目を真っ赤に腫らしたまま、私のところに駆け込んできました。熱心な信徒である父親に、彼女が礼拝に出席することや人々に伝道することをやめなければ、家を追い出すと言われたというのです。彼女は思い悩みましたが家を出る決心をしました。「私は父を愛していますが、イエス様が私にくださった大きな愛を思うと、イエス様を拒否することはできません」と、専任の奉仕者となる道を選びました。

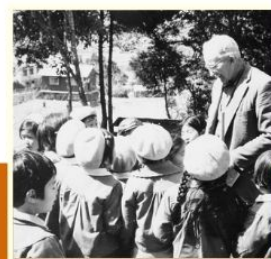
テント礼拝開始～台風の中、現される御業～

日本滞在18ヶ月が経った頃、教会を建てる為、牛深町岡東区の田んぼを買いました。聖書学校時代の友人が土地の頭金600ドルを貸してくれました。水田を整地し土台を築き、テントを2つ並べて教会としました。

ある夜、特別子供礼拝の最中に突然、激しく強い風が吹き始めました。テントはバタバタと揺れ動き、柱がグラグラしてきました。テントには子供達がぎっしりと座っていました。子供達の安全のため



写真左：1954年8月28日 初代天幕教会で
写真中央・右：愛隣幼稚園にて



【アーサー・グレエル宣教師 略歴】

- 1898年 カナダ・トロントにて出生
- 1952年 牛深に宣教師として来日（53歳）
- 1953年 牛深キリスト教会 教会堂建設 / 1954年 愛隣幼稚園 創立
- 1957年 本渡キリスト教会 開拓 / 本渡キリスト子供ホーム 建築
- 1960年 大分・蒲江キリスト教会 土地・家屋購入 / 本渡愛隣保育園 設立
- 1967年 本渡キリスト教会 教会堂建設 / 八代シャロンキリスト教会 教会堂建設
- 1972年 熊本・川尻キリスト教会教会堂建設
- 1975年 熊本・希望ヶ丘教会 教会堂建設
- 1990年10月22日 アメリカ・ミズーリ州スプリングフィールドにて召天



牛深キリスト教会集合写真。アーサー師と ▶

め、集会を解散することにして、終わる前に皆で心を合わせて祈り始めました。すると、風はおさまり静かになって、私達は最後まで礼拝を続けることができました。

その後、また同じようなことが起きました。当時、未亡人や子供達を借家に住まわせて、私はテントに住んでいました。夜中にテントが激しく揺れ、恐ろしい音に飛び起きました。レインコートを着て、テント中央の長いすの上で、腕を梁にまわして倒れないようつかみ必死に祈りました。

「神様、あなたは私を日本に遣わしました。あなたは日本人を愛し、日本人が滅ぶのを望まなかったからです。…あなたの愛は計り知れません。私達は多くの魂を救いに導く福音を伝えるためにこのテントを建てました。テントが壊れたら、天草での聖書と福音は滅びてしまいます。人々は信仰につまずいてしまうでしょう。しかしテントが守られるなら、あなたの言葉は生かされ、多くの人々の信仰は強められるでしょう」。

私は疲れ果てて立っていられなくなり、「イエス様、もう私は何もできません」と嵐の騒音の中、眠りにつきました。

翌朝、目覚めたとき、あたりは静かになっていました。一番ひどく揺れた真ん中のところは裂けていましたが、テントは無事でした。どこもかもが水浸しになりました。ところが、大切な聖書や文献のあるコーナーを見ると、そこだけが乾いているのです。配慮して下さった神様に、心の底からの感謝と喜びでいっぱいになりました。

また、ある日曜の午後、前回よりひどい台風が来るという予報をラジオで聞き、教会に60人近くの

若者達が集まり、台風を海の方に逸らして下さいと祈りました。翌朝、台風の軌道が逸れたというニュースが入り、神様が全能の腕を伸ばして下さいということがわかりました。これらの出来事は多くの人を励まし、信仰を強めることになりました。神様を讃えずにはいられません！

尊い祈りと支え～キリストの愛で結ばれて～

その翌日、ワシントン州の見知らぬ夫人から1,000ドルの小切手の入った手紙が送られてきました。「あなたがこの1,000ドルを必要としていると、神様が知らせて下さいました」。夫人はチップを貯めて、誰かの役に立てたいと思っていたところ、教会で私の天草伝道の話聞いて心を動かされ、献金して下さいました。台風がおきる前の神様からの驚くべきプレゼントでした。感謝の言葉しかありませんでした。神様は私達が何かをする前から、私達の必要と喜びをご存じなのです。神様の偉大さに打ち震えるばかりです。

天草での宣教は、多くの友達や様々な教会の助けによって支えられてきました。たくさんの食物や衣類が、家のない子供達に届けられました。セメント・ブロックの機械、多くの生活用品を詰めた大きな荷物など、どれほど彼らに助けられ支えられたか分かりません。キリストへの愛の故に、私達の心を結びつけて、共に祈り合えるようにして下さい。神様の業を知ることは本当に素晴らしいことです。

日本の九州での長い年月を通して、すべての名前を取り上げて書き記すことはできませんが、すべての友人達に神様からよき報酬が与えられることを信じて祈り続けます。「忠実な僕よ、よくやった。あなたは主の喜びの中に入るでしょう」と言われるイエス様の声が聞こえます。

